

あ、おいしい。

# 平成12度

ロゴ貼り付け

# 稻作情報

中通り版

第3号

平成12年6月28日

「ふくしま新世紀農業・農村確立運動」県推進本部

発行：福島の米 稲作情報編集会議  
編集：福島県農業試験場

東北地方1カ月予報（6月23日仙台管区気象台発表）

東北地方の向こう1ヶ月は、前線や気圧の谷の影響を受け平年同様曇りや雨の日が多いですが、前線の活動が不活発となって晴れる日もある見込みです。また、東北太平洋側を中心にオホーツク海高気圧の影響を受け、天気のぐずつく時期があるでしょう。平均気温は平年並か高いでしょう。

## 生育状況

- 1) 作柄解析試験の生育：草丈は平坦部、高冷地とも平年よりやや長く、茎数は平坦部でやや少なく、高冷地でやや多い。主稈出葉からみた生育の進度は、平年より2~3日早い。
- 2) 現地の生育：草丈はやや長く、茎数は平年並からやや多い。生育の進度は、概ね平年より2~3日早い。葉色は山間部でやや濃いが、平坦部ではさめ始めているほ場が見られる。

表1 移植期別の水稻の生育状況(本場作柄解析試験)

品種年次	5月1日移植			5月15日移植		
	草丈(cm)	茎数(本/m <sup>2</sup> )	葉齡(葉)	草丈(cm)	茎数(本/m <sup>2</sup> )	葉齡(葉)
ひとめぼれ	本年	47.7	597	9.1	38.1	549
	前年	44.4	689	9.7	37.0	691
	平年比・差	114	87	-0.2	110	81
コシヒカリ	本年	49.6	577	9.2	41.7	659
	前年	48.0	764	9.8	41.3	695
	平年比・差	114	81	-0.1	110	96

表2 高冷地における水稻の生育状況(冷害試験地)

品種年次	5月20日移植		
	草丈(cm)	茎数(本/m <sup>2</sup> )	葉齡(葉)
まい	本年	35.1	543
ひめ	前年	37.4	666
	平年比・差	100	105
初星	本年	33.9	650
	前年	34.1	719
	平年比・差	105	113

移植栽培の技術ポイント

(6月23日調査)

(6月23日調査)

## 生育は順調 中干しと葉いもち防除を徹底しよう！

1) 直ちに中干しを開始して無効茎の抑制と根の健全化、地耐力の向上を図る。中干しは幼穂形成期前までに終了し、その後の水管理は間断灌漑に移行する。

2) 葉いもちは、6月下旬以降感染に適した気象条件が出現していることから、7月上旬から発生が多くなると予想される(表3)。

本田に放置してある補植用置き苗は、早急に土中に埋没処分する。

散布剤による体系防除を計画しているほ場では、7月上旬が防除適期と予想されていることから、ほ場をよく見回り、病斑が認められたら直ちに防除を実施する。

粒剤による葉いもち防除を実施したほ場でも、病斑が認められた場合は散布剤による防除を追加する。

3) 幼穂形成期は、平坦部、高冷地とも1日程度早まると予想される(表4)。この時期に平均気温が20℃を下回ることが予想される場合には、前歴深水管理により障害不穏の発生を防止する。

4) 土壌中のアンモニア態窒素の残存量は少なく、葉色はさめ始めている。穂肥は、生育診断に基づいて施用する(表5)。窒素肥料の多用は、いもち病の多発や耐冷性の低下および玄米品質、食味の低下を招くので避ける。

5) 出穂前35~40日を目安に10aあたり4kgのカリ成分を追肥し、稈質の改善、登熟の向上をはかる。

## 技術ポイントの基礎データ等

表3 葉いもち感染好適条件の出現状況(病害虫防除所)

地点	日/6月										
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
梁川	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
二本松	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
船引	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
郡山	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小野	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
白河	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東白川	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

：感染に好適、：感染に適、：感染可能

表4 幼穂形成始期の予想(作柄解析試験)

場所	品種	本年	前年	平年
		(月日)	(月日)	(月日)
冷害試験地	まいひめ	(7.10)	7.11	7.11
	初星	(7.15)	7.15	7.16
本場	初星	(7.12)	7.14	7.13
	ひとめぼれ	(7.14)	7.16	7.15
	コシヒカリ	(7.23)	7.24	7.24

注)移植日 本場 5/15 冷害試験地 5/19

表5 追肥施用の基準(平坦部)

品種	群落 葉色 (kg/10a)	N施肥量 (kg/10a)	穗肥		
			幼穂形成期 群落葉色	施用時期 (出穂前)	N施用量 (kg/10a)
初星	施用しない		4.0以下	25日	2.0
ひとめぼれ	施用しない		3.5~4.0	25日	2.0
コシヒカリ	3.0以下	1.0	3.0以下	25日	1.0
				15日	2.0
			3.0~3.5	15日	2.0

## 直播栽培の技術ポイント

必要茎数は概ね確保された。茎数制御・倒伏防止のための中干しと葉いもちの防除に努めよう！

## 1) 生育の状況

場内の生育：湛水直播の生育は、草丈が長く、茎数が多く、葉色がやや淡い。生育は昨年より4日程度早い。乾田直播の生育は、草丈がやや長く、茎数発生が概ね順調であり、葉色はやや淡い。生育は昨年より3日程度遅い。

現地の生育：湛水直播の生育は、草丈がやや長く、茎数発生が概ね順調であり、有効茎数は概ね確保された。乾田直播の生育は、茎数が少なく、葉齢は平年並である。

## 2) 当面の技術対策

- (1) 湛水直播は、目標生育量が確保されたら強めの中干しを実施し、無効茎の抑制と土壤の固化によって倒伏の防止を図る。特に、播種深度が浅い場合や苗立ち数が多い場合には、幼穂形成期直前までは場全面に亀裂が入る程度の強い中干しを行うとともに、その後もほ場の固化を進める水管理を継続する(表8、図1)。乾田直播は、間断灌漑を継続し、中干しは実施しない。
- (2) 直播稲の生育量は、今後、出穂期にかけて著しく増大する。このため、窒素追肥は、幼穂形成期頃まで行わない。
- (3) 移植稲に比べて葉齢の小さい直播稲は葉いもちに対する感受性が高いので、粒剤の予防散布を実施するとともにほ場を見回り、病斑の早期発見に努める。

## 技術ポイントの基礎データ等

表6 湛水直播稲の生育状況(本場)

品種	年次	播種日	調査日	苗立数 (月日)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (葉)	SPAD
ひとめぼれ	H12	5.9	6.23	82	495	8.2	40.5	
めぼれ	H11	5.7	6.23	72	344	7.4	39.2	
れ	H10	5.8	6.24	97	537	7.0	45.4	
	H9	5.9	6.23	72	242	-	43.1	
	H8	5.10	6.24	93	301	7.1	-	
コシヒカリ	H12	5.9	6.23	92	605	7.7	36.8	
ヒカリ	H11	5.7	6.23	72	337	7.1	39.3	
リ	H10	5.8	6.24	128	732	6.7	43.4	
	H9	5.9	6.23	46	172	7.2	41.8	
	H8	5.10	6.24	73	247	7.1	-	

表7 乾田直播稲の生育状況(本場)

品種	年次	播種日	調査日	苗立数 (月日)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (葉)	SPAD
ひとめぼれ	H12	4.26	6.23	233	421	6.5	32.6	
めぼれ	H11	4.23	6.23	130	374	7.0	35.5	
れ	H10	4.22	6.24	131	383	-	-	
	H9	4.23	6.23	210	438	-	-	
	H8	4.25	6.14	78	99	-	-	
コシヒカリ	H12	4.26	6.23	257	482	6.6	32.6	
ヒカリ	H11	4.23	6.23	187	553	7.1	33.0	
リ	H10	4.22	6.24	236	334	-	-	
	H9	4.23	6.23	219	459	-	-	
	H8	4.25	6.14	110	-	-	-	

表8 湛水直播水稻の落水管理方法とその影響

処理区 (かっこ内は 落水期間)	稈長 (cm)	押し倒 し抵抗 (kg·cm)	収量 (kg/a)	登熟 歩合 (%)	倒伏 程度 (0-4)
常時湛水	80.4	1.8	49.1	75.8	3.5
落水1回(中)	80.4	4.3	56.8	79.9	2.2
落水2回(中+穗)	78.4	7.1	62.7	82.6	1.0
落水2回(中+登)	78.1	5.5	64.8	85.4	0.5
落水3回(中+穗+登)	83.1	8.0	65.3	79.3	0.8

注) 品種: どまんなか。落水期間の「中」は中干し期、「穗」は穂ばらみ期、「登」は登熟初期。

(1998 東北農試)

## 麦・大豆栽培の技術ポイント

- 1) 麦類の調製 高品質麦を確保するため、調製は2.2mm以上の網目を使用する。
- 2) 大豆の管理 生育初・中期の湿害はその後の生育に大きく影響するため、明きよ等の排水対策を実施する。除草・倒伏防止・生育促進のため、3~4葉期に初生葉の高さくらいまでの中耕培土を行う。イネ科雑草が多い場合には、茎葉処理除草剤を施用する。

次号の発行は7月18日の予定

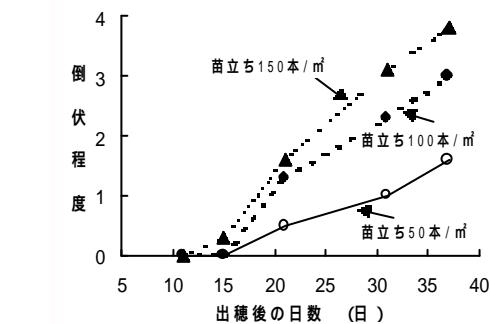


図1 苗立ち密度を変えた場合の倒伏程度の推移  
(品種:コシヒカリ、富山県農業技術センター)